

高校統合問題 さまざまな

論 点

1 高等学校改革の
必要性を示す根拠は適正か

県が高等学校改革の必要性を説明するにあたり、人口減少・少子高齢化・過疎化などの言葉が並びます。急速に変化する社会情勢に対応するために、統合も含めた高等学校改革が必要だとする考え方はです。

しかし、地域やコミュニティの形成に「学校」という存在は、必要不可欠なものです。高等学校改革を無理に推し進めるあまり、前述の人口減少・少子高齢化・過疎化に歯止めをかけるどころか、逆に促進してしまう危険性もあることを認識しなければなりません。

2 小規模校のデメリットばかり
強調されるが、メリットもある

生徒の学ぶ意欲を引き出す望ましい学級数は、1学年あたり4から6学級とする理由は何か。学級数が多くなければ、切磋琢磨できないなどという根拠はありません。

小規模校だからこそできる教育体系、安心して子どもたちが学べる環境があることを、県サイドにも理解していただく必要があります。

小規模校のメリットも認識した上での判断であると繰り返し説明されますが、より丁寧な説明が求められます。

3 総合学科導入により進路選択の
柔軟性は確保されるか

総合学科の特色として「幅広い選択科目から生徒自身が科目を選択し、個性を生かした学習ができる」「希望する進路に向けた集中的な学習ができる」などが挙げられます。

7ページで示した総合学科の概要

4 一向に示されない
生徒たちの通学手段

今回に限らず、通学手段に関する説明を求める声はこれまで何度も上がっています。しかし、県からは明確な回答が示されない状況が続いています。

高等学校の魅力化は、素晴らしいことですが、通学できなければ意味がない。路線バスを活用すれば、部活に割く時間が無くなる。寮を設置するならば、どのような設備・環境なのか。

何も情報が得られない状況を、県

■ その他にも、多くの論点が存在します

- ・学校統合が進められる背景には文部科学省の基準があり、この基準が緩和されるよう、県が主体となって取り組むべきではないか
- ・只見・川口・西会津・猪苗代高校などは、過疎・中山間地域の学習機会を確保するために1学級規模でも存続されるにもかかわらず、南会津・田島両高校が統合に向かう明確な理由は何か
- ・高校統合により、若松方面への生徒流出が促進されるのではないかなど

県議会においても、高校統合の方向性について実態把握と地域協議を求める請願書が採択されています。町では、県に対し、採択の重さを十分認識した上で、地域に寄り添った対応を求めています。高校統合問題を皆で共有し、一緒に考えていきましょう！

【問合せ】 学校教育課 学校係 電話0241-62-6300

はどのように感じているのでしょうか。今年度中に高校入試を控える子どもたちにとっては、もう時間ありません。

栄えある受章

春の褒章

消防業務に献身

芳賀 進さん（大新田）
「藍綬褒章」を受章



左から金子南会津地方振興局長、芳賀さん、大宅町長

町消防団第2支団副支団長を務める芳賀進さんが、春の褒章「藍綬褒章」をめでたく受章され、6月30日に伝達されました。

芳賀さんは、昭和55年に旧伊南村消防団に入団。以来、40年余りの長きにわたり、地域住民の生命・財産を守るため、犠牲的精神で消防業務に取り組んでこられました。

平成18年3月の町村合併を機に訓練予防部長、平成22年4月に訓練予防副分団長、平成26年4月から訓練予防分団長、平成28年から旧伊南支団副支団長などを歴任されています。

平成30年4月からは第2支団副支団長として、団員の各種訓練や消防設備などの管理指導、消防団の資質向上に日々ご尽力されています。

このたび、長年のご功績が認められ、晴れの受章となりました。



プロフィール - 【長寿の秘訣】
好き嫌いなく食べること
旅行によく出かけていた
星 リイさん（高野）
【家族】
大正9年6月28日生まれ 子5人・孫11人・ひ孫13人



おめでとうございます
ごぞいます